

地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。

この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。

また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	社会福祉法人 福聚会
代 表 者 名	齊藤 誠
事 業 所 名	グループホーム 宝珠の郷
評 価 確 定 日	2023/3/20

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100413		
法人名	社会福祉法人 福聚会		
事業所名	グループホーム 宝珠の郷(桜ユニット)		
所在地	福井市内山梨子町3-46		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 4 年 11 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症への備えとして、感染症対応訓練の実施や防護物品の充実を図るなど、入居者様の安心・安全な暮らしの実現に努めている。
また、入居者様とともに、「宝珠の畑」を耕したり、手づくりの食事、又おやつを作ったりするなど、日々の活動の充実ぶりが魅力の事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園風景の中、近くには九頭竜川やコスモス畑など自然豊かな場所に立地している。瓦葺きのモダン風の日本家屋であり、2ユニットとも広い共用空間に台所・ダイニングがあり、広々とした落ち着いた雰囲気である。法人理念を下に、事業所独自の職員行動目標を毎年設定している。そこから各職員の個人目標を設定し、2か月毎に自己評価および管理者との振り返りを行っている。そのため、職員の理念に基づいたケアの実践への意識は高く、利用者の尊厳と安心してケアの提供に繋がっている。コロナ禍のため地域との繋がりは減少しているが、感染状況に応じて間仕切り越しの面会やオンライン面会を実施している。ドライブや外出も積極的に行っている。職員は地域の公民館清掃に参加するなど、少しずつ地域との関わりも回復してきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは地域の人々に信頼される、こころ温まる質の高い介護」を職員理念とし、毎朝の申し送り時に「職員行動目標」などと併せ唱和し、実践につなげている。	法人理念を下に事業所独自の目標を設置している。また、個人目標を設定し、2か月に1回の頻度で自己評価を実施している。その都度、管理者と目標の振り返りを行い、理念に基づいたケアができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は法人が主催する月1回のお説教に加え、小学校の運動会や地域の体育大会及び文化祭に参加するなど、地域とのつながりを続けていた。	コロナ禍で地域との付き合いは減少したものの、今年は福井市の防災訓練に利用者も参加している。地元の理髪店の方に散髪を依頼するなど付き合いが回復してきている。法人広報誌を公民館や小中学校などに配布し情報発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は毎年、地域の体育大会に参加し、入居者様や職員が地元の学生ボランティアとふれあい競技に興じるなど、地域の人々に向けて認知症への理解を促していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や地域の福祉委員などと構成する運営推進委員会において意見を交換し、サービス向上に活かしている。また、推進委員会の議事内容は来客用玄関に掲示している。	感染状況を鑑みて開催している。構成員は元地区社協会長や民生委員、公民館館長など、地域住民の参加が充実している。また認知症への理解を深めている。議事録は事業所玄関に掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会へ包括支援センター職員に出席してもらい、困難事例に対しての助言をいただいたり、地域内の情報を伺ったりするなど協力関係を築いている。	運営推進会議に法人内の地域包括支援センター職員が参加し、利用者の権利擁護や支援困難事例に関する助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にかかる委員会を定期的開催しているほか、毎月末に事業所全職員により、入居者様1人ひとりのケアの方向性を話し合うなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	母体法人に身体拘束委員を設置している。事業所内では毎月のミーティングにて、身体拘束および虐待防止について話し合いを行い、スピーチロックについてなど、日頃のケアの振り返りを実施している。防犯目的も兼ねて屋外センサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底する為、上記と関連し、法人全職員を対象とする研修を年2回開催し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記6、7と関連し、入居者様の権利擁護に関する研修を開催し、法人全職員の意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書に則り、入居者様や、ご家族様へ十分に説明を行っている。丁寧な対応を心掛けていることにより、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時のご家族様とのコミュニケーション、ご家族様アンケートによる声などから、改善事項を見出し対応している。	受診の面会時に、各担当が積極的に家族と関わり要望の確認を行っている。また、毎月利用者ごとの写真を掲載した「郷便り」を発行している。コロナ禍の中、少しでも生活の様子を詳細に伝えようと努めている。毎年、家族向けに満足度アンケートも実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のチーフ会議、年に2回の面談時などに職員の声に耳を傾ける機会を設けるとともに、管理者や主任が積極的に声をかけるなどし意見を聞き、反映事項を増やしている。	管理者と年2回の個人面談以外に、2か月毎に行う自己評価と管理者との振り返りは、職員にとって、要望や思いを伝える良い機会となっており、不安なく業務に打ち込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や目標管理を運用し、職員の能力や態度、頑張った成果を認めるなど、評価する環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を積極的に推奨している。また、研修費用の助成に加え、介護福祉士以外の研修については、研修日を全て公務扱いとするなど人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やオンラインを通して同業者と接する機会はあるが、勉強会や相互訪問等に発展した交流は現状のところ皆無である。今後の検討項目としたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人との面会を行い、心身の状況把握に努め、サービス提供の内容に活かしている。また、担当ケアマネとの引継ぎを十分にやり、可能な限りご本人の望む暮らしを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族様、可能であればご本人に来所してもらい、事業所の雰囲気を感じていただいたうえで要望等を伺うなど、早い段階から関係構築に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所時の面談により、ご本人やご家族の想いや希望を十分に伺い、より良い支援の方向性を見出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の調理や掃除など、生活支援を通して、入居者様から多くの暮らしの知恵を授かるなど、支え合う関係づくりに注力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにご家族様と、入居者様への支援の方向性を確認する機会を設け、共に支え合う関係づくりに注力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族に加え、馴染みの方からの面会、暑中見舞いや年賀状のやり取りなど、これまで通りの関係を維持できるよう支援している。	包括的自立支援プログラムを活用し、利用者の分析や馴染みの関係・生活歴をまとめている。計画書や申し送りノートで情報を共有し、各利用者に応じた馴染みの支援や年賀状を継続している。感染状況に応じてパーティション越しの面会を行うなど、顔の見える関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染症対策など非常時を除き、両ユニットの自由な往来を可能としているほか、入居者全員が会し交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者やケアマネへの情報提供を丁寧に行っている。また、併設施設へ入所された場合には、職員によるご本人への面会やご家族へのフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ともに生活する中で入居者様と関わりを持つ時間を設け、1人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、定期的にあセスメントシートを作成し、本人の意向に基づいた、ケア内容の検討を都度行っている。	利用者毎に課題分析シートを作成し、利用者の思いや要望を汲み取る工夫を行っている。業務にリーダー制を導入し、リーダーが日頃から気づきを重視し、その情報を職員間で共有しケアに活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人と面会し、ヒヤリングを行うほか、ご家族や担当ケアマネから情報を収集するなど、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの状態をケア記録表や申し送りファイルに記録し、ケアに関わる細目な情報の把握、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施するモニタリングから作成するアセスメントシートもとに職員間で話し合い、意見などを反映したプランとなるよう取り組んでいる。	アセスメントと計画作成はケアマネジャーが担当している。各担当者もアセスメントを補助しモニタリングも毎月行っている。ケアマネジャー・各担当者・管理者が日頃からケアの情報交換を行い、計画書に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護支援計画書を記録したり、日誌や申し送りファイルに気づきを記入したり、ご本人の言葉を書き取ったりすることを通して、より良いケアとなるよう反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じ、定期受診や季節ごとの外出行事の日程を調整している。 コロナ禍前は希望に応じて散髪外出や買い物外出も企画した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	衣類や日用品の購入など、できるだけ地域の衣料品店やスーパーを利用するよう心がけている。馴染みの関係を築くことにより、安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本としつつ、希望に応じ、近医への転院も可能としている。定期受診については、ご家族の付き添いを原則とするものの、緊急時等は職員による対応も可能としている。	基本はかかりつけ医を継続して受診し、家族の付き添いを原則としているが、家族の不安解消や正確な情報交換のために職員も同行している。計画担当者のケアマネジャーは、積極的に主治医とも情報交換し、医療ケアの質の向上に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、併設の特養の看護師に相談、指示を仰ぐなど連携を密にしている。また、夜間はオンコール体制を整え緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。また、ご家族、主治医、担当看護師と連携を密にとりながら退院後の受け入れがスムーズに行えるよう努めている。退院前のカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際、重度化した場合や終末期のケアについて口頭での説明を行っている。入院時には病棟カンファレンスに参加し、ご本人やご家族、病院スタッフと話し合いのうえ方針を決定している。	基本的には重度化の場合、施設や医療機関への移動を推奨している。入居時に説明し、都度状態に応じて家族と相談し、方向性を決めている。過去に2例の看取りの経験があり、往診医の協力と家族の希望に応じて看取りの体制を整えている。	看取りの経験もあり、職員一同その人の最期までを支援していきたい気持ちは強いが、今後、研修を重ねたり独自のマニュアルを整備することで、利用者の要望に対応できる支援を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、配架している。また、法人全体の勉強会に参加し、緊急時の対応力向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、配架している。また、毎月ユニット別に避難訓練を実施するほか、地域の避難訓練に参加し、地域とのつながりを築いている。なお、非常時の備蓄品も確保している。法人全体の避難訓練は行っているがコロナ禍の為、地域住民も参加しての訓練は行われていな	法人全体で年2回の火災想定避難訓練を実施している。夜間の職員の不安解消や、いざという時の混乱を防ぐため、事業所独自で毎月避難訓練を実施している。その様子を郵便で家族や運営推進会議の構成員に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ訪室の際には必ずノックを厳守し、ご本人より入室の許可を得るなど、プライバシーの配慮に努めている。	日頃のケアの中で、管理者や職員間が声を掛け合い、言葉遣いや羞恥心に配慮した質の高いケアができるよう心がけている。職員間で話し合い高い意識を持っているが、マニュアルや委員会等の設置はない。	専門職の倫理規定などを盛り込んだ研修等を行うことで、より専門性に富んだケアができることに期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に応じ、活動に使用する物品等を個人用に準備している。また、日々の関わりの中でご本人の希望や想いを取り入れ、外出行事やレク活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で決まり事はあるが、一人ひとりが自己選択できるように声かけや環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、地域の理容師による訪問散髪を実施し利用している。着替えは自身のペースに任せるなど、その日その日のご本人好みのおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どのような食事を食べたいかを伺いながらメニューに取り入れている。また、盛り付けにも配慮し見た目でも楽しんでいただいている。また、食後には茶碗拭きなど、一緒に片付けを行っている。	隣接の施設に栄養課があるが、職員と利用者の家庭的な雰囲気重視するため事業所独自で調理を行っている。利用者の協力を得ながら準備や後片付けを実施し、菜園で収穫した野菜を使った料理を行うなど、楽しい食卓作りを心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事摂取量、水分飲用量を記録し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯の洗浄、歯磨きを日課とし、個々に応じた口腔ケアを行っている。義歯は週に1回ポリドント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄助を行っている。また、羞恥心に配慮し、耳元での声かけなど、さりげないケアに努めている。	各利用者の排泄パターンを記録し、トイレでの排泄に努めている。男性職員を3名配置し極力同性介助にも努めて利用者の羞恥心に配慮した介助を心掛けている。各ユニットに3か所のトイレを完備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳提供に加え、排便困難時には食物繊維を提供し、細目な水分補給に努めている。1日1回、ホーム内にて歩行訓練や軽体操を行い、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け、個々に合わせて、臨機応変に対応している。入浴場面では誘導から入浴まで職員が1対1で対応し、ゆったりと落ち着いた気持ちで入浴できるよう努めている。	週2回の提供を基本としているが、利用者の状況に応じて、曜日や時間帯を変えるなど臨機応変に対応している。一方のユニットに普通浴、もう一方のユニットに機械浴を完備している。かけ流しで個浴対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課は決まっているが、それぞれの生活リズムや本人の希望に合わせて自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服は原則、職員が管理し、服薬状態を確認している。またファイルに薬剤表を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や性格に合わせた役割を見つけ、仲間と協力し合いながら生活できるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、車外へ出る機会は限られているが、実家を周ったり、車中から外の景色を楽しんでいただいたりするドライブを可能な限り実施している。	感染状況に応じて外出企画を実施している。現在はドライブを中心としており、コスモス畑や利用者の自宅へ行っている。少しでも利用者のストレスを軽減するため、ドライブ行事は頻回に行い、全利用者が出かけられるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に所持金額の把握を行い、ご家族の了解やご本人の管理能力に応じてお金の所持を認めている。また、買い物や受診など、必要に応じてご本人に支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族から了承を得ている場合は、ご本人より要望があれば自由に電話を掛けていただいている。掛け方が分からない方には都度職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の掲示物を季節ごとに入れ替えたり、テラスから風景を眺めてもらったりするなど、日々の生活の中で四季を感じながら、ゆっくりと過ごせるような空間づくりに努めている。	瓦葺きのモダンな日本家屋であり、料亭のような気品ある落ち着いた雰囲気である。広い共用空間とは別に、ダイニングや台所もあり、開放的で気持ち安らぐ空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング、談話室など共用スペースを思い思いに利用できるよう声かけを行い居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年にわたり使い慣れたものや、思い入れのある物などを持参していただくなど、ご本人が居心地よく生活できる環境づくりに努めている。	居室にはベッド・エアコン・洗面所・箆笥を常設している。希望に応じて家具の持ち込みは可能で、写真や作品の掲示もできる。TVに関しては、共用空間で皆と談話しながら見られるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、必要箇所には手すり等を設置している。また、トイレや浴室、居室の場所が分かるようサイン表示するなど生活動作の自立を支援する環境が整っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100413		
法人名	社会福祉法人 福聚会		
事業所名	グループホーム 宝珠の郷(菟ユニット)		
所在地	福井市内山梨子町3-46		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 4年 11月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症への備えとして、感染症対応訓練の実施や防護物品の充実を図るなど、入居者様の安心・安全な暮らしの実現に努めている。
また、入居者様とともに、「宝珠の畑」を耕したり、手づくりの食事、又おやつを作ったりするなど、日々の活動の充実ぶりが魅力の事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜ユニットと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは地域の人々に信頼される、こころ温まる質の高い介護」を職員理念とし、毎朝の申し送り時に「職員行動目標」などと併せ唱和し、実践につなげている。	桜ユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は法人が主催する月1回のお説教に加え、小学校の運動会や地域の体育大会及び文化祭に参加するなど、地域とのつながりを続けていた。	桜ユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は毎年、地域の体育大会に参加し、入居者様や職員が地元の学生ボランティアとふれあい競技に興じるなど、地域の人々に向けて認知症への理解を促していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や地域の福祉委員などと構成する運営推進委員会において意見を交換し、サービス向上に活かしている。また、推進委員会の議事内容は来客用玄関に掲示している。	桜ユニットと同様	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会へ包括支援センター職員に出席してもらい、困難事例に対しての助言をいただいたり、地域内の情報を伺ったりするなど協力関係を築いている。	桜ユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にかかる委員会を定期的開催しているほか、毎月末に事業所全職員により、入居者様1人ひとりのケアの方向性を話し合うなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	桜ユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底する為、上記と関連し、法人全職員を対象とする研修を年2回開催し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記6、7と関連し、入居者様の権利擁護に関する研修を開催し、法人全職員の意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書に則り、入居者様や、ご家族様へ十分に説明を行っている。丁寧な対応を心掛けていることにより、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時のご家族様とのコミュニケーション、ご家族様アンケートによる声などから、改善事項を見出し対応している。	桜ユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のチーフ会議、年に2回の面談時などに職員の声に耳を傾ける機会を設けるとともに、管理者や主任が積極的に声をかけるなどし意見を聞き、反映事項を増やしている。	桜ユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や目標管理を運用し、職員の能力や態度、頑張った成果を認めるなど、評価する環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を積極的に推奨している。また、研修費用の助成に加え、介護福祉士以外の研修については、研修日を全て公務扱いとするなど人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やオンラインを通して同業者と接する機会はあるが、勉強会や相互訪問等に発展した交流は現状のところ皆無である。今後の検討項目としたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人との面会を行い、心身の状況把握に努め、サービス提供の内容に活かしている。また、担当ケアマネとの引継ぎを十分にを行い、可能な限りご本人の望む暮らしを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族様、可能であればご本人に來所してもらい、事業所の雰囲気を感じていただいたうえで要望等を伺うなど、早い段階から関係構築に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	來所時の面談により、ご本人やご家族の想いや希望を十分に伺い、より良い支援の方向性を見出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の調理や掃除など、生活支援を通して、入居者様から多くの暮らしの知恵を授かるなど、支え合う関係づくりに注力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにご家族様と、入居者様への支援の方向性を確認する機会を設け、共に支え合う関係づくりに注力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族に加え、馴染みの方からの面会、暑中見舞いや年賀状のやり取りなど、これまで通りの関係を維持できるよう支援している。	桜ユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染症対策など非常時を除き、両ユニットの自由な往来を可能としているほか、入居者全員が会し交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者やケアマネへの情報提供を丁寧に行っている。また、併設施設へ入所された場合には、職員によるご本人への面会やご家族へのフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ともに生活する中で入居者様と関わりを持つ時間を設け、1人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、定期的にアセスメントシートを作成し、本人の意向に基づいた、ケア内容の検討を都度行っている。	桜ユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人と面会し、ヒヤリングを行うほか、ご家族や担当ケアマネから情報を収集するなど、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの状態をケア記録表や申し送りファイルに記録し、ケアに関わる細目な情報の把握、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施するモニタリングから作成するアセスメントシートもとに職員間で話し合い、意見などを反映したプランとなるよう取り組んでいる。	桜ユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護支援計画書を記録したり、日誌や申し送りファイルに気づきを記入したり、ご本人の言葉を書き取ったりすることを通して、より良いケアとなるよう反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じ、定期受診や季節ごとの外出行事の日程を調整している。 コロナ禍前は希望に応じて散髪外出や買い物外出も企画した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	衣類や日用品の購入など、できるだけ地域の衣料品店やスーパーを利用するよう心がけている。馴染みの関係を築くことにより、安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本としつつ、希望に応じ、近医への転院も可能としている。定期受診については、ご家族の付き添いを原則とするものの、緊急時等は職員による対応も可能としている。	桜ユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、併設の特養の看護師に相談、指示を仰ぐなど連携を密にしている。また、夜間はオンコール体制を整え緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。また、ご家族、主治医、担当看護師と連携を密にとりながら退院後の受け入れがスムーズに行えるよう努めている。退院前のカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際、重度化した場合や終末期のケアについて口頭での説明を行っている。入院時には病棟カンファレンスに参加し、ご本人やご家族、病院スタッフと話し合いのうえ方針を決定している。	桜ユニットと同様	桜ユニットと同様
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、配架している。また、法人全体の勉強会に参加し、緊急時の対応力向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、配架している。また、毎月ユニット別に避難訓練を実施するほか、地域の避難訓練に参加し、地域とのつながりを築いている。なお、非常時の備蓄品も確保している。法人全体の避難訓練は行っているがコロナ禍の為、地域住民も参加しての訓練は行われていない。	桜ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ訪室の際には必ずノックを厳守し、ご本人より入室の許可を得るなど、プライバシーの配慮に努めている。	桜ユニットと同様	桜ユニットと同様
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に応じ、活動に使用する物品等を個人用に準備している。また、日々の関わりの中でご本人の希望や想いを取り入れ、外出行事やレク活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で決まり事はあるが、一人ひとりが自己選択できるように声かけや環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、地域の理容師による訪問散髪を実施し利用している。着替えは自身のペースに任せるなど、その日その日のご本人好みのおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どのような食事を食べたいかを伺いながらメニューに取り入れている。また、盛り付けにも配慮し見た目でも楽しんでいただいている。また、食後には茶碗拭きなど、一緒に片付けを行っている。	桜ユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事摂取量、水分飲用量を記録し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯の洗浄、歯磨きを日課とし、個々に応じた口腔ケアを行っている。義歯は週に1回ポリデント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄助を行っている。また、羞恥心に配慮し、耳元での声かけなど、さりげないケアに努めている。	桜ユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳提供に加え、排便困難時には食物繊維を提供し、細目な水分補給に努めている。1日1回、ホーム内にて歩行訓練や軽体操を行い、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け、個々に合わせて、臨機応変に対応している。入浴場面では誘導から入浴まで職員が1対1で対応し、ゆったりと落ち着いた気持ちで入浴できるよう努めている。	桜ユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課は決まっているが、それぞれの生活リズムや本人の希望に合わせて自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服は原則、職員が管理し、服薬状態を確認している。またファイルに薬剤表を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や性格に合わせた役割を見つけ、仲間と協力し合いながら生活できるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、車外へ出る機会は限られているが、実家を周ったり、車中から外の景色を楽しんでいただいたりするドライブを可能な限り実施している。	桜ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に所持金額の把握を行い、ご家族の了解やご本人の管理能力に応じてお金の所持を認めている。また、買い物や受診など、必要に応じてご本人に支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族から了承を得ている場合は、ご本人より要望があれば自由に電話を掛けていただいている。掛け方が分からない方には都度職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の掲示物を季節ごとに入れ替えたり、テラスから風景を眺めてもらったりするなど、日々の生活の中で四季を感じながら、ゆっくりと過ごせるような空間づくりに努めている。	桜ユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング、談話室など共用スペースを思い思いに利用できるよう声かけを行い居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年にわたり使い慣れたものや、思い入れのある物などを持参していただくなど、ご本人が居心地よく生活できる環境づくりに努めている。	桜ユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、必要箇所には手すり等を設置している。また、トイレや浴室、居室の場所が分かるようサイン表示するなど生活動作の自立を支援する環境が整っている。		